

肥料&農薬技術情報

1. 今月の農作業
2. 病害虫管理
3. 病害虫発生予察注意報
4. 稲作は土づくりから！準備を万全に！
5. 柑橘花が咲いたら花肥を！

1. 今月の農作業

3月23日～4月22日までの天候見通し

四国地方	平均気温(1か月)	降水量(1か月)	日照時間(1か月)
各階級の確率	低:10% 並:20% 高:70%	少:20% 並:30% 多:50%	少:50% 並:30% 多:20%
平年比	高い見込み	多い見込み	少ない見込み

令和6年3月21日 高松地方气象台 発表

《麦》

○黒穂病類防除

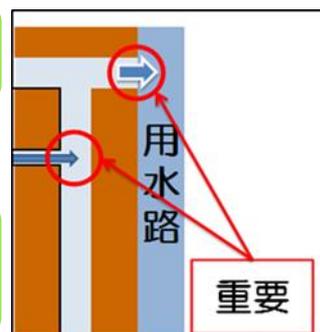
種子伝染性の病害であるので、発病穂は見つけ次第、早期に抜取りましょう。

○湿害対策

4月に入ると、**湿害**が発生しやすくなります。雨水が確実に排水できるように**排水溝(明きょ)の補修**を徹底しましょう。

【湿害のメカニズム(春先)】

降雨後は**土壌が水分で満たされる**ため、**土壌中の酸素は低下**します。春先はそれに加え、気温や地温も上昇し、土壌中の微生物が活発に活動を始めます。そのため、**酸素をより多く消費し、湿害を受けやすくなります**。



《早期水稻》

○移植前の準備

作土層を広げることで、根域が拡大して地上部の生育向上が期待できるため、**耕起深 15 cm**を目標に積極的な深耕を行いましょう。深耕専用の機械がない場合は、トラクタの速度を遅くし、ロータリーで深めに耕起するとよいでしょう。

○移植時期

極端な早植えは、移植後に霜害を受け、生育遅延を招く恐れがあるため、本県では4月以降（山間地域では4月下旬以降）の田植えが望ましいです。また移植後から活着期は深水管理により保温に努めましょう。なお極端な霜害でなければ、生育はやや遅れるものの、ほとんどの場合は回復するため、植え直す必要はありません。

○施肥

基肥量の基準はチッ素、リン酸、カリの成分がそれぞれ 10a 当たりコシヒカリで 3kg、6kg、6kg、あきたこまちでは 3～4kg、6kg、6kg です。

○濁水の流出防止

代かき水（濁水）の流出は、河川の汚染や肥料成分の流出に繋がるため、流出防止に努めましょう。まず畦畔や水口は代かき前に点検し、漏水が無いように補修しましょう。代かきは浅水状態で丁寧に行い、田植え前の強制落水はしないでください。

○除草剤

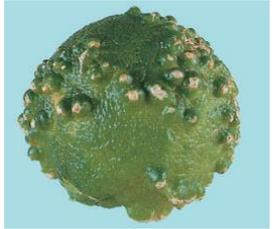
除草剤の処理後7日間は完全に止水し、除草効果を高めるとともに薬剤成分の水田外への流亡を防ぎましょう。なお、一発処理剤の多くはヒエの葉齢にあわせて使用時期が決められており、他の葉齢が進んだ雑草がほ場内に混在する場合は、それらに対して除草効果が劣ることがあるので、適用範囲内でやや早めに処理するようにしましょう。

○病害防除

コシヒカリは、いもち病に弱いため、本病に効果のある箱施用剤を必ず使用しましょう。また、置き苗はいもち病の発生源になるため、補植後は水田に放置せず、すみやかに処分してください。

2. 病虫害管理

愛媛県病虫害防除所 (写真：愛媛県農作物病虫害雑草図鑑等より)

病虫害名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
赤かび病	麦類	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤散布は穂が最も病原菌に弱い開花期（出穂 7～10 日後）を目安に必ず散布する！ ・その後、曇雨天が続く場合には、2 次感染が助長されるため、さらに 7～10 日後に追加防除を行う！ ★特に小麦では、赤かび病防除は、2 回防除を徹底する！ 	 
<p>ハルヒメボシでは、開花期に降雨の影響を受けているとみられ、発生に助長的！ 適期の防除徹底と、必要に応じた追加防除を！</p>				
かいよう病	かんきつ	並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・発病枝葉は除去し、菌密度を下げる。 ・防風垣や防風ネットを整備する。 ・多発園地では、新葉への感染防止対策として開花前（4 月中～下旬）の薬剤防除を徹底する。 ・本病に対して感受性の高い品種（甘平等）では新梢での発生に注意する。 	
そうか病	かんきつ	並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・罹病枝葉を除去し、園地の病原菌密度を下げる。 ・展葉初期（新梢長約 1 cm）の防除効果が高いため、圃場観察を行い、適期を逃さないようにする。 	
ミカンハダニ	かんきつ	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季にマシン油乳剤を散布してない園地では、密度が急激に高まるがあるので、圃場観察を行い、密度が高まる前に防除を行う。 	
かいよう病	キウイフルーツ	発生注意	<ul style="list-style-type: none"> ・枝幹や枝の切り口等から樹液の漏出や枯死枝の発生が見込まれるため、園地の見回りにより初発を見逃さない。 ・結果母枝の棚付けは確実にし、園地の防風対策を強化するなどして、病原菌の侵入口となる枝のすり傷を防止する。 ・芽後叢生期（新梢長約 10cm）までにカスミンボルドー：1,000 倍、コサイド 3000：2,000 倍などを散布する。 	 
炭疽病	かき	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・剪定時に越冬病斑のある枝の除去を徹底する。また、切除した枝は園地内に放置せず、適切に処分する。 ・新梢への感染を抑える防除が遅れないようにする。 	

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
べと病	冬春 きゅうり	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ハウス内の換気に努め、多湿を防ぐ。また、老化葉はできるだけ除去し、圃場内の通風を図る。 発病初期の防除に重点を置き、薬剤が葉裏までしっかりとかかるよう、丁寧に散布する。 	
灰色かび病	冬春 トマト いちご きゅうり	並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> 発病果や枯死茎葉は早めに除去する。 発病初期の防除に努め、同一系統の薬剤の連用を避ける（ローテーション防除の徹底！）。 	
うどんこ病	冬春 いちご	やや多	<ul style="list-style-type: none"> 伝染源となる発病葉・発病果や古葉はできるだけ除去し、通風と薬剤の付着性を高める。 果実発病が中心となるため、発病初期の防除を徹底する！ 	
コナジラミ類	冬春 トマト いちご	トマト：並 いちご： やや多～多	<ul style="list-style-type: none"> 圃場内外の除草を徹底する！ タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので、発病株は早期に抜き取り、速やかに処理する。 	
ハダニ類	冬春 いちご	並	<ul style="list-style-type: none"> 気温上昇に伴い増加するので、早期発見に努め、早めに防除する。 気門封鎖剤を含む系統の異なる薬剤をローテーション散布する。 カブリダニ類やミツバチの活動に影響しない薬剤を選択する。 摘葉を行い薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。 	
アザミウマ類	冬春 いちご	並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見による早めの防除が効果的であるため、圃場内をよく観察する 圃場内外の除草を徹底する。 ミツバチや天敵の活動に影響しない薬剤を選択する。 	
ネギアザミウマ	たまねぎ	やや多	<ul style="list-style-type: none"> 圃場内外の除草を徹底する！ 防除の際は、薬液が葉の基部までかかるように丁寧に散布を行う。 収穫後の残渣は圃場内に放置せず、土中に埋めるなど、速やかに処分する。 	

3. 病害虫発生予察注意報

【3/22 付：注意報発令！】

病害虫名：果樹カメムシ（チャバネカメムシ、ツアカメムシ、クギカメムシ）

対象作物：うめ、もも、柿、りんご、なし、すもも、かんきつ、かき等

発生地域：**県内全域**、発生程度：**やや多～多**

病害虫防除所より**3月22日付で、注意報が発令されました！**

本年のチャバネアオカメムシの越冬量は県下40か所調査の平均値によると越冬虫数は、県全体では3.88頭/2m²（平年：0.97頭/2m²）と平年の4倍になっている。特に南予では、6.5頭/2m²（平年：0.95頭/2m²）と平年の約6.8倍で非常に多くなっている。

【防除上の注意・ポイント】

- ・もも、なしでは早めに袋掛けをする。
- ・かんきつでは裏年に当たり花量が少ないことが予想されていることから、開花から幼果時期における発生に注意し、落下等を防ぐ。
- ・果樹園への飛来は、曇天で夜温があまり下がらない日に多くなるので、飛来が見られたら早めに防除を行う。
- ・主に山林から飛来してくるため、山林に近い園地での被害が多い傾向にある
- ・園地で飛来を確認した場合には薬剤防除を行う。
- ・薬剤は登録内容を順守して使用する。
- ・カメムシ類の飛来が続く場合には薬剤の散布回数が多くなる一方、カイガラムシ類やハダニ類に対してリサーチエンスが起こりやすいので、薬剤散布後の発生に注意する。

【かんきつ場面における主な薬剤】

※同一系統（FRACコードが同じ）の薬剤の連用を避け、ローテーション防除！

薬剤	FRACコード	希釈倍数	使用時期	使用回数
アドマイヤーフロアブル	4A	2,000倍	収穫14日前まで (但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内
ダントツ水溶剤	4A	4,000倍	収穫前日まで	3回以内
アクタラ顆粒水溶剤	4A	2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤	4A	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
モスピランSL液剤	4A	2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
ロディー乳剤	3A	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内
テルスターフロアブル	3A	5,000倍	収穫前日まで	3回以内

【3/29 付：注意報発令！】

病害虫名：べと病

対象作物：たまねぎ

発生地域：**県内全域**、発生程度：**やや多～多**

病害虫防除所より**3月31日付で、注意報が発令されました！**

3月上中旬の広域調査では、過去7か年と比較して発生圃場率、発病株率ともに平年よりも高くなっています。

特に**東予地域では、発生圃場率が高くなっています（平年の約4倍）！**

【防除上の注意・ポイント】

- ・越年罹病株（一次感染株）は、やや萎縮し葉身が湾曲する（右写真参照）！越年罹病株を確認した場合、直ちに抜き取り、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- ・湿潤な気象条件下（気温15℃前後、降雨が続く場合）では、罹病株上に多量の分生胞子が形成され、周辺に飛散し二次伝染を起こし、広範囲に被害が拡大する。
- ・排水不良の圃場で発生が多いため、降雨後の排水に努める。
- ・発病後では薬剤の防除効果が劣るので、早くから計画的に散布を実施する。なお、たまねぎの葉身は薬液の付着性が悪い為、展着剤を必ず加用する。
- ・防除は降雨後の天候を考慮しながら7～10日間隔で行う。ローテーション防除の徹底！



【主な薬剤】 ※同一系統（FRACコードが同じ）の薬剤の連用を避け、ローテーション防除！

薬剤	FRACコード	希釈倍数	使用時期	使用回数
ダコニール1000	M5	1,000倍	収穫7日前まで	6回以内
ペンコゼブ水和剤	M3	400～600倍	収穫3日前まで	5回以内
ランマンフロアブル	21	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内
ピシロックフロアブル	U17	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
カンパネラ水和剤	40 + M3	750～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	40 + M5	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ベトファイター顆粒水和剤	27 + 40	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライフロアブル	27 + 11	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
ダイナモ顆粒水和剤	21 + 27	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
オロンディスウルトラSC	49 + 40	2,000倍	収穫前日まで	2回以内

4. 稲作は土づくりから！ 準備を万全に！

しっかり深耕し、しっかり土づくりをしましょう

深耕目標は・・・15 cm

土づくりは・・・鉄分とけい酸の補給

「鉄強化美土里」3袋/10aの施用が最適です！

水稻早期品種の施肥基準

水稻品種		窒素	リン酸	加里	備 考
コシヒカリ	基肥	3	3	3	
	中間		3	3	
	穂肥	3		3	
	合計	6	6	9	(目標収量) 480 ~ 560 kg/10a
あきたこまち	基肥	3~4	6	6	
	穂肥	4		3	
	合計	7~8	6	9	(目標収量) 510 ~ 540 kg/10a
基肥推奨肥料	(高度化成) ・化成肥料444 ・化成肥料403 ・苦土入り燐加安380 (緩効性肥料) ・ユーコートクイック ・ユーコート602L ・スーパーSRコート802 (早期用・普通期用) ・Jコート特1号 ・中生一発グッドJ				
中間推奨肥料	PKミックス、けい酸カリ、楽々ソイヤー (流し込み)、田田楽PK (流し込み)				

樹脂被覆肥料の肥料殻流出防止策の徹底を！！

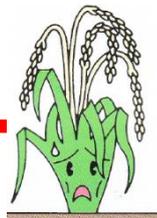
流出した肥料殻は、今年施肥したものではなく以前に使用されたもので、代掻きから数日の間に流出するものが殆どです。代掻きから数日間の対策が最も重要です。

対策1 代掻きは浅水で、代掻き後も水田から水を落とさないように管理する。

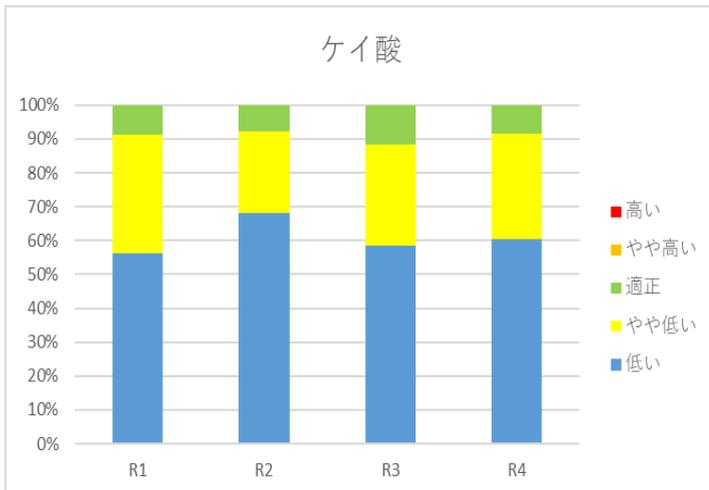
対策2 水を落とす場合は、水尻にネットや柵で殻をキャッチする。



水田 春耕起時に土づくりを行いましょう！！



愛媛県内水田土壌の実態(R1~R4年の分析実態)



ケイ酸

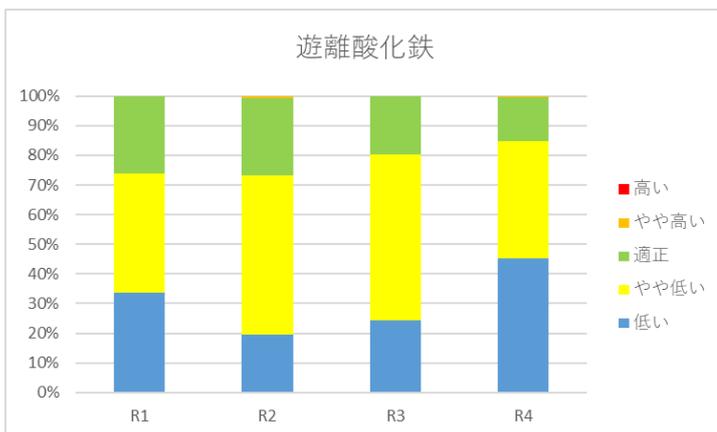
ほとんど全ての水田で不足しています。ケイ酸は稲体を健全にし、異常気象への対応力を強化します。しっかりと土づくりを行いましょう。

ケイ酸を高めるには

ケイカルや鉄強化美土里を施用しましょう。

Q. 施用適期は??

A. ケイカルや鉄強化美土里のケイ酸は「く溶性（水に溶けない）」のため秋口から春先にかけて施用できます。



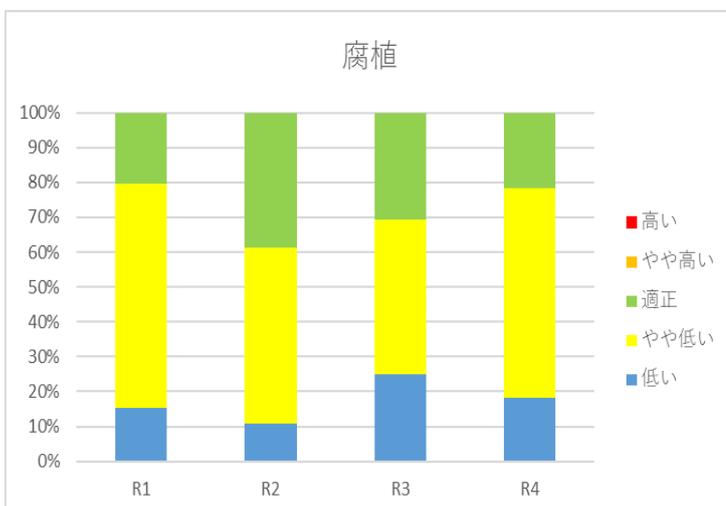
遊離酸化鉄

8割以上の水田で不足しています。

遊離酸化鉄は、土壌中にあることによって、硫化水素などを無害化して根腐れ等の障害を軽減することができます。

遊離酸化鉄を高めるためには

「鉄強化美土里」などの含鉄資材を施用しましょう。



腐植

全体の8割近くが不足しています。

腐植はその土地の保肥力（肥料を保つ力）を示しますので、分析結果からは年々地力が低下している傾向になっています。

腐植を高めるには

稲わらのすき込みや、堆肥・「アツミン」などの施用で地力向上に努めましょう。

5. 柑橘花肥の施用で樹勢維持と安定生産を！！

花によってチッソが多量に消費されるこの時期に、光合成によって結実率が決定されます。
光合成のためにも葉中のチッソ濃度を高め新葉の緑化を促進してやる必要があります。
そのためにも速効性チッソを含む花肥を施用することは効果的です。

開花期頃の状態

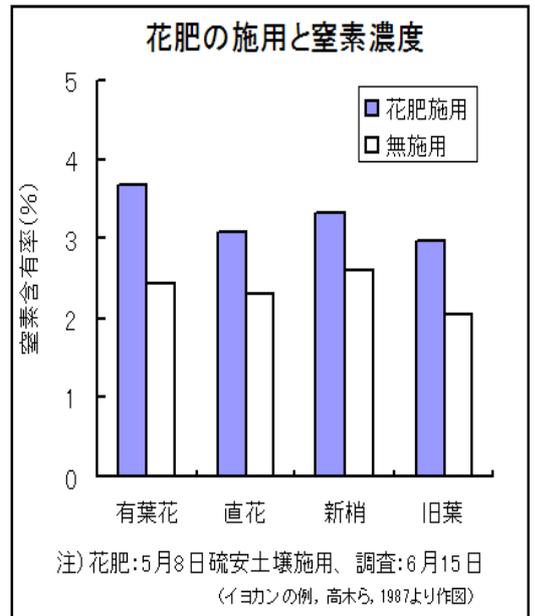


花肥の効果

- ①開花・結実には多くのエネルギーを必要とします。
- ②着花が多いと、春肥などの養分が花に奪われ新梢や新葉などへの配分が不足します。

結果、新葉の充実遅れや新梢・根の伸長が悪くなり・・・

樹勢が低下する恐れがあります



速効性の肥料を10aあたりチッソ成分で3~5kg施用し、樹勢の維持・向上を図りましょう。
土壌が乾燥している場合は、かん水(20mm程度)を行い、肥効を高めましょう。
開花初期から10日間隔で3回程度施用すると、なお効果的です。

土壌施肥の場合

開花直前（4月下旬～5月上旬頃）に速効性の化成肥料をチッソ成分で3kg/10a程度施用する。

葉面散布の場合

開花直前から速効性の液肥を7～10日間隔で2～3回散布する。

樹勢維持のためには花肥の施用を!!

おすすめ資材

肥料名	チッソ	リン酸	加里	施用方法
あおぞら化成	15	14	9	土壌施用（20～30kg）、葉面散布（600倍）
ダブルクイック550	15	15	10	土壌施用（20～30kg）
ダブルクイック660	16	6	10	土壌施用（20～30kg）
ポン尿素液肥	20	—	—	葉面散布（200～400倍）
ポン液肥2号	10	3	4	葉面散布（500～600倍）
神協スピリッツ803	8	10	3	葉面散布（500～1000倍）
液肥167	16	7	—	葉面散布（300～400倍）
パワフルグリーン2号	10	4	3	葉面散布（500～600倍）
グリーンサムピュア	18	18	18	葉面散布（2000倍）

（果樹・柑橘）新葉の緑化促進・樹勢強化に適する液肥

肥料名	特徴
葉面マグ	水溶性苦土16%
神協スピリッツ835	海藻エキスとN・P・K
尿素	窒素46%
あざやか	窒素43%